

普及項目	養殖
漁業種類等	養殖業
対象魚類	シカメガキ
対象海域	八代海

クマモト・オイスターの現地養殖指導

天草広域本部水産課・吉村 直晃

【背景・目的】

クマモト・オイスター（シカメガキ）の養殖においては、晩夏から初秋にかけての大量へい死が問題となっている。しかし、県水産研究センター及び県広域本部水産課（以下「県」という。）が実施した温湯処理（以下「処理」という。）試験によりクマモト・オイスターのへい死が軽減されることが明らかとなった。この処理技術の現場への浸透度は養殖試験参加者（以下「参加者」という。）により異なっており、県の継続した現地指導が必要な状況にある。そのため、参加者への同技術の普及を図り、主体的に処理を行っていくことを目的とした。

なお、今年度は、管内 2 業者のうち、1 業者の処理技術の習得、1 業者の処理実施体制の完全独立化を目標とした。

【普及の内容・特徴】

令和元年度配付群への処理の概要を下表に示す。

今年度より、主体的に処理を開始した松本水産に対しては、処理の確認と飼育中の貝の様子について聞き取りを行った。なお、現地指導は 8 月のみとし、処理実施体制の完全独立化を促した。

また、県が現地指導している紀勝水産には、処理毎に作業工程について指導した。

参加者	所在地	処理技術の浸透度	処理期間（間隔）	処理開始時個数	処理終了時個数	生残率
松本水産 松本一徳	天草市 倉岳町棚底	本年度より業者主体で実施	4 月下旬～ 10 月上旬 (3 週間)	7,700 個	4,300 個	56%
紀勝水産 山本太陽	上天草市 龍ヶ岳町大道	県の現地指導により実施	4 月下旬～ 10 月下旬 (3 週間)	28,000 個	15,380 個	55%

【成果・活用】

県全体の生残率（36%）と比較すると双方とも良好な結果であった。

しかし、処理期間後の 11 月下旬から 12 月中旬において、松本水産が養殖する貝の半数がへい死しており、同業者については処理期間を再検討し、指導していく必要がある。また、紀勝水産には処理技術を習得させる事ができたと考えられる。

【達成度自己評価】

4 目標（指標）はほぼ達成できた（76～100%）



写真1 松本水産の温湯処理施設
※ 温調中のためクマモト・オイスター
投入前



写真2 紀勝水産社屋前での温湯処理



写真3 松本水産によるへい死貝除去
(令和2年(2020年)11月25日)



写真4 松本水産飼育員の生残状況確認
(令和2(2020年)年12月15日)

【上段：生残貝
下段：へい死貝